佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(16)　鶴子代官所の移転

慶長8(1603)年、江戸幕府を開いた徳川家康は、石見銀山代官大久保長安を佐渡代官頭に任じました。長安は、直ちに石見銀山から3人を「目代(もくだい)」(家老格の代官)として佐渡に派遣し、大久保山城・小宮山民部には民政を、宗岡佐渡には金銀山経営を担当させました。

当時、鶴子代官所は、鶴子銀山の主要な坑道である本口間歩に隣接する、三方が沢に囲まれた台地に置かれていました。周辺は、土を盛って搗(つ)き固めた土塁(どるい)が築かれ、沢根湊から運ばれる金銀山入用資材、食糧などへの課税や管理を行なっていました。

ところが、相川が金銀山の中心になるにつれて、沢根湊から鶴子を越えて相川まで資材等を運ぶことが難しくなったため、多くが相川海岸に陸揚げされるようになりました。

このため長安は、鶴子代官所の機能を相川に移すよう命じました。長安が新たに入る陣屋は、相川海岸を一望できる「半田・清水ケ窪」といわれる田地で、当時の地主である山師の山崎宗清から、金子5百両で買い取りました。陣屋の建築は、播磨の番匠(大工)水田与右衛門が行いました。

『佐渡相川志』によれば、鶴子代官所が移転した後も、慶長9(1604)年から慶長15(1610)年にかけて、保科喜右衛門という代官を配置し、鶴子の銀山を治めさせたとあります。しかし、鶴子代官所の移転により急激に人口流出が進んだためか、これ以降、代官の名称は現れなくなりました。

鶴子の代官所跡

問 産業観光部世界遺産推進課
☎63―5136

佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記 79

島の魅力を掘り起こし、みんなに伝えるガイド協会！

平成25年6月に市民講座の受講生が中心となって誕生した「佐渡ジオパークガイド協会」は、認定ガイドのほか、ガイド以外の会員も所属して友の会のような活動を続けています。会員は、現在62人です。

協会では、講演会や島外から訪れるジオパークガイドとの交流、リスクマネジメントの講習参加など、さまざまな活動に取り組んでいます。

協会の活動の中心は、毎月の学習会です。学習会のテーマは会員からの要望を参考に計画して、講師を招いて島内の見どころを巡ったり、「食」とジオパークの関連性を探るため、「いごねり」の調理過程を見学したりするなど幅広いジャンルの研修が行なわれており、毎回楽しみながら親睦を深めています。

また、学習会後には、道路や海岸などの清掃活動も実施し、来訪者に気持ち良く佐渡を歩いてもらうための活動も続けています。

このような活動を通して、住んでいる地域や職業、世代が違う会員たちの交流の輪が広がっています。

入会している会員には、研修会の案内やジオパークに関する刊行物の紹介など、ジオパークに関する情報を毎月送付していますので、興味のある方は、ぜひ入会してジオパークの輪をさらに広げていきましょう。

ジオパークを楽しむためのコース作りにも取り組んでいます

みんなで清掃活動も頑張っています

問 教育委員会社会教育課
ジオパーク推進室
(畑野行政サービスセンター内)
☎66―4160